

コロナ禍最中の6月議会と対策

新型コロナウイルス感染拡大阻止と対策が、鎌倉市にとっても最大のテーマ。

コロナ対策支援を優先しているため、3月議会で可決された第3次鎌倉総合計画 第4期基本計画 実施計画の事業がほとんど進んでいません。市はコロナ対策を優先する中で、計画の重点事業をはじめ、事業の優先度を9月までに決めるといことです。

このため議会は会期をできるだけ短縮し、その中でコロナ対策関連を主とした第2号 第3号補正予算の審議をしっかりと行うことを目指しました。質問も急を要する事を短時間でいうという協力体制が整いました。

◆補正予算は約2億7,831万円

このうち新型コロナウイルスの対応経費は約1億8,320万円。

●市独自の中小企業への家賃補助。●商店街への支援事業。●こどもの家や民間放課後児童クラブでの開所時間延長補助。●児童扶養手当受給世帯への臨時特別給付金。●私立保育所等で使用するマスク等購入経費に係わる補助金、等々20件にわたります。

また、この他に約9,510万円が提案されていますが、これは昨年の台風15号・19号に関する被害対応経費です。昨年の台風被害の復旧がまだ終わっていない所へ、新たな、しかもこれまで経験したことのない新型コロナウイルス感染拡大という災害が起こってしまったことに気づかされます。

これから、豪雨、台風の季節です。さらに最近では小さな地震が頻発。避難所のあり方など、複数災害が同時に起きた時を想定した備えが重要になってきます。

◆7月15日臨時議会で第二次コロナ対策も

市はさらに「新生児とおなかの中の赤ちゃんのための特別給付金」等、新たな補正予算を決定しました。詳しくは中面で。

コロナに負けない鎌倉

●鎌倉市のコロナ感染者数

2月下旬の発生以来44人(7/16現在)。
5/25～7/1は新規感染者ゼロだったが。

●市独自の各種補助と対策

中小企業家賃支援制度、新生児などに特別給付金、GIGAスクール構想の前倒しでタブレット配布。

●市特別職、議員期末手当減額

12月期末手当を市長は全額、副市長50%、教育長30%削減。市議会議員も30%削減と常任委員会の視察等中止。

●市公共施設の再開

閉館中だった施設は6月中旬より順次再開。
一部閉所中の施設もあり。

●鎌倉第二地区のイベント

ラジオ体操は浄明寺町内会では開催の予定。
盆踊り大会、市民体育大会は中止を決定。

●感謝と敬意を表します

医療従事の方々、児童福祉施設の方々、ゴミ収集事業者の方々他、鎌倉市に働く全ての方々に感謝致します。

ブログ「いやさか通信」から

かまくらっ子おももりカード



市立小4年生から中学生全員に配布。1人で悩みを抱え込まず信頼できる人に相談できるように「お守り」をイメージ。いざという時に頼れるよう健康福祉部の事業です(6/30)。

台風15号の倒木落ちる



バリバリ、ドーンという音に驚いて道路に出ると、大きな木が川に。山にはまだまだ倒木があります。これも鎌倉の緑とのつき合いです(6/23)。

前川あやこのブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

共育のまち、鎌倉をつくろう

【発行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-10-8
【E-mail】info@maekawa-ayako.net

共育のまち、鎌倉をつくろう



7月12日、梅雨の晴れ間に鎌倉の海岸を歩きました。写真は由比が浜。泳ぐ人、サーフィンを楽しむ人。かなりの人出です。今年は海水浴場は開設しません。しかし海岸に出る人は多いでしょう。安全対策、迷惑行為防止など県、市、関係団体が力を合わせて対策を講じます(2020.7.12)。



前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい

議会広報委員会委員

教育・子どもみらい常任委員会委員

政策法務研究会メンバー

レポート

No.65

2020,07発行

2020年6月議会からのご報告

- 1 コロナ禍最中の6月議会と対策
- 2 海水浴場開設中止と安全対策
- 3 感染症に対応した避難所のあり方
- 4 小・中学校、オンライン授業の充実を
- 5 コロナ禍の下、頑張る子どもの家・保育園

鎌倉市第二次新型コロナ対策

- 新生児とおなかの中の赤ちゃんのための特別給付金 4/28～7/31までの新生児、7/31までに母子健康手帳を交付された胎児に10万円を給付。
- 養育面で支援が必要な家庭に対し、配食サービスを通じて家庭状況を見守る経費約500万円。
- GIGAスクール構想の前倒し 今年度中に、小中学生に1人1台タブレット端末を配布。
- オンライン面会などの環境整備 福祉施設などの面会、市役所の各種相談のオンライン環境整備。
- コロナ禍における災害対策 避難所用パーティションの配置等の備蓄品の充実、民間と連携して感染防止に配慮した避難所の運営。

海水浴場開設中止と安全対策

この夏、県内13市町に25ヵ所ある海水浴場は、コロナ対策として全面閉鎖されます。鎌倉市の海水浴場も同様です。

しかし、海水浴場が開かれなくとも、夏の海や海岸には多くの人が集まることは防げません。ビーチは開放的に見えても、密集状態になりかねませんし、泳ぐ人、マリンスポーツを楽しむ人の安全も図らなければなりません。

◆マナー条例を改正施行

海岸での飲酒、喫煙、バーベキューや花火、音響機器を用いて音楽や音声を発することは禁止されています。また「マリンスポーツ禁止エリア」を設けていますが、「遊泳ゾーン」はありません。例年のような「監視所・救護所」、臨時のトイレ・シャワーは設置しません。県によるライフセービング協会の監視所はありますが、例年のような体制はとれません。安全に無事に夏を越せるよう、お互いに安全を図りましょう。

感染症に対応した避難所のあり方

私が住む鎌倉市の東部地区でも、「避難所マニュアル」の作成が始まっています。町内会でマニュアル作成に携わっている立場ですが、今回の新型コロナウイルス感染症の危機が「避難所」に及ぼす影響は大きく、これまで構想を練ってきた避難所の概念を大きく変えなければなりません。

避難所の3つの密(密集・密接・密閉)を避けることが前提条件となりますが、地元小学校の体育館に約1,000人避難という市の数字は、もはや現実的ではありません。

- 避難所、スペースの不足。体育館だけでなく、空き教室などのスペースも使えないか。町内会館や自治会館、あるいは企業が持つ高い建物、寺社等も考えられる。
- 避難所の入口で体調チェックが重要。発熱がある、赤ちゃんがいる、障がいのある方など、個室が必要。
- 避難者が持って行くもの。食糧、間仕切り、ダンボールベッド、発電機など、これまでの運用に必要な備品は揃えるとして、マスク、体温計、手指消毒液などは持参の必要あり。
- 分散避難という考え方。様々に工夫してもスペースが不足するとすれば、利用者はまず崖や川の近くの人を優先する。ご近所で安全と思われる知人宅と日頃のコミュニケーションを取っておくなど。
- 避難者自身による避難所運営。様々なスペースを避難所として利用することになれば、市職員だけでは手が足りなくなる。町内会やボランティアの方々、そしてなによりも避難者自身が互いに助け合う運営が必要になる。こうしたことを「避難所運営マニュアル」に盛り込んでいきたいと考えています。そしてこうした意識をお一人お一人に理解していただくことが重要と考えております。

小・中学校、オンライン授業の充実を

3月3日から市内全市立小・中学校は休校になり、分散登校が始まったのが6月1日。この間約3ヵ月、児童・生徒と学校をつなげるものはオンライン。コロナ禍において教育環境として強く求められたのがICT環境の充実です。市でもオンラインによる生活学習支援整備事業を進めています。

しかし準備が整わず、オンラインでホームルームを実施できたのは、「緊急事態宣言」が解除された頃。もっと早くできなかったのかと感じています。

オンライン授業は非常時だけでなく、今回も不登校の子ども達の参加を促す機会となった実績もあります。次の感染拡大に備えるだけでなく、対面授業はもちろん重要ですが、もう一つの授業形態として力を入れることを提案しています。

コロナ禍の下、頑張る子どもの家・保育園

子どもの家は、小学校の臨時休校中、連日朝から開所するという対応が続けられました。休館中の青少年会館の職員やコーディネーター等の応援を得て、開所時間の延長を乗り越えてきたそうです。また連日開園されていた保育園のご苦労も察して余りあります。

市では子どもの家への補正予算、私立保育所への衛生用品の経費、ひとり親家庭550世帯への児童扶養手当(市独自)などの支援をしています。

◆待機児童対策

新規保育園の開園で定員は217人増、まだ59名の待機児童がいます。定員が増えても利用者も増加するので、需要の高まりに追いつけません。しかし、各年齢の受け入れ率は100%ではなく、保育士確保の工夫と0～5歳までの年齢構成を変える必要を提案しています。